



ヤダリンはおそろおそろ森へと入っていきました

初めての森に、ヤダリンはドキドキしています。

博士 「ヤダリン、目をとじてごらん」

ヤダリン 「えっ、こわいよ」

博士 「だいじょうぶ。何が聞こえるかな」

ヤダリン 「鳥がいない。葉っぱが風にふかれて、ざわざわしている。遠くで水が流れている。川があるのかな」

博士 「木にも耳をすませてごらん」

ヤダリン 「うわっ、音がする」

博士 「木も生きているんだよ」

「コツン！」

ヤダリン 「あれ、今の音は？」

博士 「どんぐりの実がわしの頭の上に落ちた音だ」

ヤダリン 「森の中って、ふしぎがいっぱいなんだね。思ったより、気持ちいいや」

博士 「そうだろう。ここで、ことわざをひとつ教えよう。
“木を見て、森を見ず” というのは、小さいことにとらわれて、大きなことをみのがしてしまうこと。ヤダリンは、虫がながてなのにがんばって、森の中を歩いてみて、いろんなことがわかったね」

森のはたらき 2

- 森は高さの30倍のところまで風を弱めるはたらきがあるので、強風や潮風、冬の冷たい風を防いでくれます。
- 音をしゃ断したり、強い日差しをさえぎってくれます。
- 森林浴、登山などで、人をリラックスさせてくれます。
- 木材、キノコ、炭、たきぎ、山菜などの恵みをもたらしてくれます。
- 落葉、動物の死体などを分解し、ゆたかな土をつくれます。
- 土の中、地上、草間、樹上、幹の中、空などに、いろいろな種類のたくさんの生き物がすんでいます。

